

第1回王子駅周辺まちづくりガイドライン検討会 議事要旨

日時：2021年10月20日（水）15:00～17:00

場所：北とぴあ 地下一階展示ホール

1. 開会

事務局 ・開会宣言

2. 委員委嘱（委嘱状交付）

事務局 ・机上配付にて委員委嘱

3. 部長挨拶

十条・王子まち
づくり推進担当
部長 ・開会挨拶

4. 委員紹介

事務局 ・資料の確認
・当検討会は22名の委員によって構成することの確認
・委員の名前は委員名簿の配付により確認
・委員1名欠席の報告

5. 会長及び副会長の互選

事務局 ・設置要綱第5条第2項に従い互選によって会長・副会長を選出
各委員 ・出口委員、大貫委員からの推薦により、久保田委員を会長とすることを承認
・久保田会長からの推薦により、出口委員、三浦委員を副会長とすることを承認
・会長・副会長からの挨拶

6. 検討会の運営について（会議の公開、代理出席）

事務局 ・事務局より検討会設置要綱の説明
・検討会委員の構成について確認
・検討会の公開に関する内規に従い、発言の要旨等は事務局でまとめ、内容を確認のうえ北区ホームページに掲載し、広く区民に周

知することを確認

・検討会の代理出席に関する内規に従い、委員がやむなき理由により欠席する場合は、委任状をもって代理を認めることができることを確認

7. 議題

事務局

・経過報告（新型コロナウイルスによる検討会の1年延期、昨年10月からJR王子駅改良検討調査の着手、日本製紙との協力）

・配布資料にもとづき説明

会長

・事務局からの説明に対して、ご意見等あればお願いしたい

委員

3つほど質問させていただきたいのですが、1つ目は、ランドデザイン後の動きとして、東京都の「都市づくりのランドデザイン」が現況編のP4にでております。これはランドデザインを議論していた時に、これをベースにして考えたり、議論しましたが、これが令和3年3月の時点でちょっと考え方が変わったのでしょうか。今日、東京都の方々もいらっしゃいますので、東京都の委員へのご質問になるのですが、いわゆる王子をはじめとした周辺の地域に対するものの考え方がどういう風に変ったのか、これは当然東京都が基盤整備をやっていくにあたって、最初の29年度の時にも地域がこういうことをやりたいとか、こういう方向性を求めていくということをしっかり出していくことによって、東京都もその基盤を整備していくことに、それを踏まえて改定していくという説明をいただいていたのですが、今度の考え方は、何か変化があったのでしょうか。それともポイントとして、何かをやっていけば、東京都さんと一緒に基盤を整備していくことができるのか、どのような点が変更になったのかが1つめです。

2点目は、全然出ていないのですが、2050年のカーボンニュートラルはものすごく大きなランドデザイン後の変化だと思えますが、今回のランドデザインには書かれていないのがどうかと思います。都市におけるエネルギーシステム、この中に再生エネルギーをどういう風に組み込んでいくのでしょうか。北区全域でとらえるとなるとなかなか難しいかもしれませんが、例えば拠点地域だけにすると今回の再開発に際しては、しっかりと手を打っていくということが北区全体に繋がっていく、非常にいいモデルケースになるのではないかと思います。そういう意味では、王子駅周辺に置ける上位計画の中に、環境省が出しているものやスマートシティなどを参考にして、我々も十分

に勉強していく必要があるのではないのでしょうか。その前に 2030 年の達成目標というのがありますが、これは現に動き始めている計画もいろんな意味で修正していかないといけないかも知れませんが、これが現況編の中に入っていないのは、考え方も含めてどうかと思います。

3 点目として、上記計画がここに出ていますが、この場所で議論することではないかもしれませんが、いわゆるまちづくりをやっていくために、関連する話題として、例えば北区役所が決めている要綱や公園の指定管理制度がどうあるべきなのか、公園そのものにどういう指定があるのか、これはランドデザインの議論の話が出ていたと思いますが、こういうことを少なくとも覚えとして、勉強しておく必要があるのではないかと思います。繰り返しになりますが、ここで各議論をする必要はないですが、規制があるのであれば、どういうものが緩和して進めていくのかとか、そういった情報を頭に置きながら、横串を刺しながらでないとなかなか今後のまちづくりは進んでいかないと思います。少なくとも関連して、他の部署でも考えて下さいというようなニュアンスも含めて、列挙しておく必要があると思います。

委員（都職員）

都市づくりのランドデザインがどういった形に変わっているのかについてご説明させていただきます。従来は都心・副都心という考え方だったのですが、地域それぞれが個性を持って拠点形成をしていくべきだという考えの中、王子駅は活力とにぎわいの拠点ということで、先程の資料の中にもありましたが、自然や歴史などのキーワードが入っていますが、こういったものをまちづくりに引き出して、魅力的な都市、拠点形成を進めていこうと書かれています。また、飛鳥山がございしますが、公共の緑を継承しているところがありますので、緑の拡充や緑の空間の使い方等についても議論いただき、鉄道と密接な関係がありますので、ランドデザインの中の駅まち一体ということで、駅とまちを一体的に整備していく中でバリアフリー動線の確保等も含めて書いていただいているところもあります。地域特性を生かしながら、交通結節機能を高めながらまちづくりを進めていくという方針で、ランドデザインの将来像を実現していくために、我々は、協力させていただきますので、よろしくお願いします。

委員（都職員）

交通系の話のランドデザインの中では、ご紹介いただいた p4 の左下の方にある駅周辺に関する整備の取組みとして、これから王子が目指していくイメージというものがウォークブルという単語が出てきますが、全体的に今まで整備した都市基盤のストックを時代の変化に

合わせて使いやすいかたちにリニューアルしていくというところが大きな方針であるということを示し、2040年代を見据えて、再整備を進めていくという指標として作っています。具体的には、それぞれエリアごとに再整備の方針を全体の方針と合致したところで整理していければ良いと思っています。

事務局

まず2点目のエネルギーについてです。委員のご指摘の通り、北区としてもゼロカーボン宣言ということで、2050年までに区内の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すという宣言をしています。現況編の中には資料として入れていませんが、区として宣言を行っているという事も踏まえ、ガイドラインについては策定していきたいと思っております。

3点目に関して、飛鳥山公園は「北区の顔」ということで、さらに魅力が引き出せるような再整備も進めていきたいと思っています。

委員（区職員）

まだ検討を行っている状況ではありますが、まちづくりなどの所管も出席するなかで、現在、環境基本計画の改定に取り組んでいるところです。早くてこの冬くらいには素案をお示しさせていただきますが、その中には、まちづくりの環境でありますとか、公園、水、緑の観点、カーボンニュートラルの視点も盛り込む予定です。また、指定管理者制度については、北区の方でも現況での課題もあるとしておりますので、関係各所、連携しながら進めてまいりたいと思っております。

委員

環境基本計画の方にもお呼びいただいています。逆にそっちの方で王子のまちづくりなどの具体的な名前は無いので、たいしたことはできないけれど、それぞれで検討はしっかりやっているものがあるので、備考欄でも良いのでしっかりと書き込んでおいて、そちらを見ていただくと、ちゃんと生かされているかななどの情報共有いただけると良いと思います。

東京都にご質問したいのは、前回、そういうところを踏まえて、個性あるまちづくりをまち側から持ってこいという、まちの熱意として来るところから、都市基盤を一緒にやっていきますというニュアンスがあるかと思っております。そのニュアンスは、変わらないですか。

委員（都職員）

こういう場を借りて、東京都もご意見させていただきながら進んでいかなければと思います。都市開発の様々な諸制度もありますので、そういった活用の仕方や、基盤と周辺市街地をどのように整備していけば良いかを協力させていただきながら、進めていきたいと思っております。

副会長

以前の記憶をたどりながら、今日お配りいただいたランドデザインの計画編と現況編とある内容拝見しておりました。大きな課題は防

災だと思えます。防災については大きく二つあり、4～5年前のグランドデザインの頃から議論されている大規模な地震災害が起きた時のその後の火災と避難の問題と、ここ数年のうちに全国各地で大規模な水害が起きていますが、水害対策の問題です。特にゲリラ豪雨がいった際の地盤が低い土地への対応の問題ですが、この4年間はかなり深刻度が増してきているのではないかと思います。現況編を見ますと都市計画マスタープラン2020の中にも、防災拠点として、災害対策機能を有すると書いてあります。防災拠点は非常に使いやすい言葉ではあると思いますが、具体的にこの地域をどのようにして防災を強化していこうとしているのか、防災拠点としてどういった点に力を注いでいこうとしているのが課題と思います。特に、これから5年先、北区役所の移転等に伴う、地域の防災拠点对策について、具体的に今後どのような対策をしていくのか、どのあたりに力を注いでいこうとしているのかを改めて確認しておいた方がよいと思いました。

2点目は、この4～5年の間に、国土交通省などを中心として、公民連携という言葉が普及してきました。行政の力だけでは限界がありますし、民間の力だけでも限界があります。公民連携ということが盛んに言われています。王子駅周辺についても、公民連携が重要だと思います。先程やりとりをされていましたが、どのように公共と民間を連携させていくのかといった課題とも言えます。インフラ整備はおそらく公共の方でやっていくことになり、民間の方は民間の方で、それぞれの役割を担ってもらうことになると思います。公民連携の考え方や仕掛け方をもう少し踏み込んで、北区の方でリードして進めていく必要があると思います。その2点について補足いただければと思います。

事務局

まず1点目の防災の考え方についてですが、マスタープランにも記載がありますように、まずは新庁舎の建設に伴う周辺の防災力強化が考えられるかなと思います。併せまして、水害に対する低地から高台への避難の流れがまちづくりのポイントかと思えます。また、基盤整備にあわせて、事前の避難等も含めてソフトとハードの両面から考えていきたいと考えております。

2点目の公民連携については、ハード整備は区が主導していく面があると思いますが、「つくる」から「つかう」の視点においては、地域の方々のご協力をいただきながら、ガイドラインでまとめた計画をどのように実現していくのか、まちの皆様にお力をいただきながら、様々な活動が生まれる様に展開していきたいと思えます。

会長

2点とも重要なことだと思います。それぞれ可能な限り具体的にという指摘かと思うのでよろしくをお願いします。

第一回ですので、できれば皆様に一言ずつ本検討会に期待することなどをご発言いただきたいと思います。

委員

これから、王子のまちづくりと言いましても、様々な策定委員会をやり続けてきた結果が明日に繋がっていくと思っておりますが、やはり地域振興的な観点からすると、どのようなかたちでこれから10年先を見据えた上で、住み続けられるまちづくりにいかにしていけるかということが地元、これから住み続ける方々の願いだと思っております。また、行政の面でのいろいろなところのお力添えをいただきながら、まちづくりの検討をしていっていただきたいと思っております。現況編の中でも何故、まちづくり検討会におきまして、王子駅周辺や堀船のいろいろな現地調査をしていただいているのかを皆さんに理解していただきたいと思っております。王子まちづくり担当課、総務課の皆さんのお力添えだけでなく、各課の力を集約していただき、各課の対応を全て取り組んだ上で、地元の環境設計を考えて頂かないと、いつまで経っても良くならないので、そこを考える元として、進めていただければと思います。

また、東京都の方も呼びいただいておりますが、王子駅は明治通りと北本通りと幹線道路が入り組んでいます。立場の面でいろいろ違うとは思いますが、そのあたりをうまく噛み合わせた上で、東京都がやっても北区ができない、北区がこう考えていても、ということになりかねないので、手を結びながら進めていただければと思っております。

また、地元の企業や商工会議所の人のお力添えがないと、地域活性というものに繋がらないと思っております。産業振興をしっかりと見据えた上で、10年先、15年先になりますと、北区役所の庁舎の移転時に我々の生活がどうなるのか、しっかりと考えた上で、こうした策定の検討を進めていただきたいと思っております。

委員

私が住んでいるのは堀船ですが、まちの中に石神井川が流れていて、平成17年と22年の2回、石神井川が氾濫しまして、約400世帯が浸水被害に遭いました。今回の王子駅周辺の現況の中で石神井川が南北を分断している要素の一つになっているとありますが、堀船に住んでいる我々からすれば、石神井川の氾濫の度に川の暗渠化を希望していました。分断している要素の一つになっていることからして、できればまちづくりの中で暗渠化をして、ここを歩道にして、なおか

つ高台に避難しやすくなるような構想を練っていただきたいと今回の資料を見て思いました。

委員

もともと工場の多い場所でありまして、今開発しようとしているところが王子製紙の工場があり、戦後十条製紙と王子製紙に分かれたものですから、十条製紙の十条工場の社宅となっていたところでした。何故工場がどんどんなくなったかという、自然的にここにいる価値がなくなったので動いていったということだと思います。戦前は、火薬工場の大きなものがあり、凸版印刷の工場が東京書籍の本社となっていて、この近くにも東京書籍印刷をいう印刷工場がありました。こちらもここにある意味がないということで、今はホームセンターになっております。昔は工場で働く人たちのまちだったので、大繁華街というか、映画館が5,6軒あり、寄席などもあったりして、非常に労働者のための場所であったのだらうと思います。それがいつの間にか住宅が多くなり、映画館の跡地がマンションになり、映画館は全部マンションになってしまったのではないのでしょうか。随分変わったなと思っています。私たちが子供の頃は、王子は娯楽街といった感じでした。今は住宅街ですが、北とぴあに入ってくる左側に荒川が氾濫すると1.8mまで浸水するという表示を見ましたが、1.8mの水の中で新庁舎をどうやって防災拠点にするのかと不思議に思ったりもしました。まちが安全に暮らしやすい、住民の人が決めていくのだらうと思いますが、何もしないで放っておけば、儲かると思う方たちがそのようなことをするでしょうし、そうすると統制の取れないまちになってしまう。みんなが安全で生活しやすいまちにしようということで、このような会があると思う。そういったことで是非、孫たちも住み続けられるような街になってくれればありがたいと思っています。

委員

商店街の店舗が毎年非常に減っています。商店街の活性化のために、商品券の販売などをやっていますが、販売しても使うところがないとお客さんの方から意見が出てくるような状況になっています。15年後に王子駅周辺或いは北区内の商店街がどんな状況になっているのか想像がつかない状況であり、王子の街にしても生鮮食品を売っている店が1軒しかない状況で、果たして人の流れが商店街にできるのか心配しています。是非、商店街にもう少し明るい未来が期待できるようなデザイン、ガイドラインにしていきたいと思っています。

委員

コロナ禍の中で、先程お話にありました、公民連携に関して、その動きを本格化させていきたいと考えています。渋谷栄一の大河ドラマもやっていますが、公にご協力いただくというスタイルで、民主導と

は言いませんが、公民連携していくことが非常に重要だと思います。その上でその考え方を整理していく必要があり、我々がどういう役割を果たしていくか、公共がどういう役割を果たしていくか、いずれにしてもまちのベースを考えていく。この会ができるだけ地域ビジョンの共有として、王子のまちをどのようにしていきたいか、色々ご提案いただいている中で、地域を利用する、働いて稼いでいく人たちにとって、これからを担う新しい世代を育てていくことも重要だと思っています。

委員 国立印刷局では北区への譲渡を前提に王子工場の整備事業を進めているところです。環境アセスの取組み手続きを進めるとともに建築に向けた準備を進めています。まず私どもの整備をして、それから北区に譲渡しないと、庁舎の建設は進まないということになりますので、計画に遅れないように速やかに粛々と進めてまいりたいと考えているところがございます。地域に対してどのような貢献ができるかなど、そういう部分をしっかりと考えながら、整備計画を進めていきたいと思っています。

委員 今回策定するまちづくりミッションの中には駅前を歩行者に開放するというものがあり、そのミッションの中の戦略に、歩行者空間の拡充やバス乗り場の形成などがかけられておりますので、こういった部分でご協力できる部分は議論していきながら、協力をさせていただきたいと考えております。

委員 王子駅周辺のまちづくりの進捗により将来的に鉄道利用客が増えることを前提とした検討で調査を進めているところであります。今回新たにまちづくりガイドライン、事務局の方からありましたが、交通拠点機能強化という部分についても鉄道事業者として議論させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

委員 王子の駅が東京の北の拠点として、交通結節点としての魅力がありながらも生かし切れていないというご指摘があり、また、駅まち一体という考え方のご説明もありましたが、いろいろなエリアで駅まち一体の考え方も取り入れておりますので、王子駅でも展開していければと思っています。具体的に南北線王子駅につきましては、バリアフリールート、エレベーターであったり、JR線との乗り換えであったり、区民の皆様にはご不便を強いているような状況であります。当社だけでは解決できない問題でございますので、公民連携しながら、こういった不具合をどう解決していくのかを議論させていただけると大変ありがたいと思います。

委員

先程、十条製紙として名前を出していただきましたが、私ども日本製紙は、前身は十条製紙でございまして、その後山陽国策パルプと合併しまして、日本製紙となりました。もともとこの地に会社があったということで非常に思い入れがある次第です。現在、駅前でサンスクエアやゴルフ練習場などで大変お世話になっています。我々としても少しでも何ができるかということをお客様と議論させていただければと思っています。

副会長

どこでもそうですが、一つのエリアを開発するのに関係する方々が多数いるため、なかなか意思疎通が難しいということは理解しています。渋谷の駅周辺はたいぶ開発が進んでいますが、鉄道や道路、地下道があり、ビルの建築があり、河川等、様々な関係者がいる中でこういった会議体を作って議論を進めてきました。王子においても、関係者の皆様と調整を進めながらまちづくりを議論していきたいと思えます。今日はいただいた資料について、第1回目ということで、現況とガイドラインの方向性を事務局から示していただいたところですが、特に計画編のP17の色分けの図の各エリアのまちづくり方針というところが北区の思いかなと思います。こういった部分を議論できればと思います。また、スケジュールの中でオープンハウスがありますが、具体的にどういったものをどういった方に提示するのかイメージとしてあれば、教えていただきたいと思えます。また、4回の検討会の成果としてどのあたりまでを想定しているか、1年間が勝負ですので、どの辺を成果物として、今見ている限りでは、先行実施地区については整備計画を作っていこうということは理解しましたが、その他のエリアのスケジュール感を提示いただきたいと思えます。

会長

計画編のP2で、「先行実施地区」というのは若干誤解を招くのではないかなと思います。土地利用転換を図るという意味で先行的に進めるということだと分かるのですが、その他の駅前歩行者の開放、防災に強いまちづくりなどの要素については15年後から進めるというわけではないと思えますが、そういうイメージを持たれかねないと思っています。もう一つP16の「ウォークブルエリア」という言葉についても要検討だと思っています。ウォークブルというのは一般的な話で、絵のついた全体がウォークブルでなければならぬと思います。その中でも特に駅前は、歩行者に解放されたエリアであるので、ウォークブルを超えた表現を王子ならでの名称で、オリジナルなものを作ってください、徹底的に歩行者に開放するというイメージを共有できるようにオリジナルなまちづくりをチャレンジしていただきたいと

思います。

事務局

オープンハウスについて今検討しているのは、パネルを作成して、それをご覧いただきながら説明を行い、アンケートにより意見を頂くことができたらいいかと考えています。2点目のスケジュールについては、先行実施地区については15年を目途に具体的な整備計画を策定していきたいと考えています。併せまして、周辺のエリアについては、先行実施地区のまちづくりが広がっていくようなイメージでまちづくりの方向性をガイドラインでまとめていきたいと思っています。ご指摘の通り、短期と中長期できっちりと分かれるものではなく、時間軸は検討する内容によって様々なものが出てくると思われますので、今後、そういったおおまかなスケジュール感を資料でお示ししていきたいと考えています。

また、「ウォークブルエリア」については、それを越えた表現ということで、これは宿題という形で考えさせていただきたいと思えます。委員の方からご意見をいただきながら、来年、案としてまとめていくまでに継続的に考えさせていただきたいと思えます。全体のウォークブルの真ん中のものをより強調するような表現として、検討させていただきたいと思えます。

会長

スケジュールですが、15年、30年の間にどういったことが動いていくのか、具体的なものは、先行実施地区というものだと思いますが、防災のことをすごく気にしていたので、いつまでにどういうことができるかということ、具体的なことは書きにくいかもしれませんがロードマップが見えるような形で示してもらえればと思えます。

委員（都職員）

今回、大きな方針を確認して、次回具体の整備計画について詳細に計画を詰めていくと作業になると思えますが、防災や公民連携の話がありました。王子のまちは起伏があり、飛鳥山公園がそもそも高い。防災の観点からも、避難するにしても上下動が結構あると思うのですが、平面図だけだと整理が難しいと思うので、レベルを意識した、繋がっているのか繋がっていないのか、どうつないでいくのかという時に公民の連携とか、官と民の境目の部分というところでいろいろな調整があると思えますが、地下鉄とのつながりの部分もそうですが、分かるように示していただき、公民連携という意味でもどのようにつながることができるのか、そういうところがうまくいくのかという確認などの整理をお願いします。

委員（都職員）

東京都でも高台まちづくりに力を入れている。駅前に明治通りや北本通りがあり、まちを分断してしまっているという課題もあるので、

高台まちづくりと分断解消のためにデッキのようなものを整備して連続させるのはどうか。

8. 閉会
事務局

- ・閉会の挨拶
- ・第2回検討会は1月下旬を目処に開催予定である旨連絡